

R7
2/19
(水)

人生100年時代 ～もひとつ、がんばっていきまっしょい～ 小説家・随筆家 敷村 良子さん



松山市出身で、映画化・ドラマ化・アニメ化もされた小説『がんばっていきまっしょい』（坊っちゃん文学賞受賞作品）の作者である敷村良子さん。

小説のモデルとなった松山東高校のボート部時代の思い出や、小説が映像化されるまでの経緯、映画撮影時の裏話など、『がんばっていきまっしょい』にまつわるエピソードをユーモラスにお話しいただきました。

結婚と夫の転勤により新潟に移住し、しばらく創作活動から離れていた敷村さんは、還暦を前に「自分の人生なのだから、自分が本当にやりたいことをやろう。」と、何をしたいか思いつくままにリストアップ。自分は何をしているときに生きがいを感じるか模索する中で、再び小説を書きたいという気持ちが強まりました。ちょうどそのタイミングでアニメ映画化の話があり、それをきっかけに大学院で一から小説の書き方を学び直し、新たな作品「もひとつ、がんばっていきまっしょい」の執筆を始めたそうです。

敷村さんは、「還暦がきても、意外と元気。60代が一番いい時代かもしれない」「時間の余裕が生まれるシニア世代だからこそ、本当にやりたいことを見つけることができる。」と話します。そして、もひとつ、がんばるために、「仕事で培ったスキルや経験を活かす』『新しい分野への挑戦』『趣味を深める』『ときめく』『ボランティア』など自分に合ったアプローチで新たなチャレンジを続けると、これからの人生がより充実したものになる」と参加者の皆さんにエールを送られました。

受講生の感想

- ・様々な苦勞などを飾らずに話されていて、また明日からやっといこうという気持ちになれた。
- ・青春は年齢ではないということを改めて実感した。
- ・「1日に新しいことをひとつ覚える」「デジタルディバイド」今まで避けていましたが、取組んでいかないと本気で思いました。
- ・「もひとつ、がんばっていきまっしょい」今日の話先輩や仲間に伝え、人生を楽しんでいきたい。